令和6年度 事業報告

令和7年6月

公益財団法人 高速道路調査会

目 次

【1】 事業の報告

I	公益目的事業 1	1
1	調査研究事業	1
	(1) 調査研究	
	(2) 研究助成	
2	情報提供事業	8
	(1) 機関誌『高速道路と自動車』の発行	
	(2) 「道路と交通論文賞」の表彰	
	(3) 調査研究成果等の出版、研究報告書・関係資料の閲覧等	
	(4) 講演会の開催	
	(5) 研究発表会の開催	
	(6) 海外道路情報の収集・提供	
	(7) 国際道路機関との情報交換・交流	
II	公益目的事業 2	14
	講習等事業	14
	(1) 講習会	
	(2) 高速道路の点検診断に関する講習および資格付与	
	(3) 海外道路調査団の派遣	
	(4) 留学支援	
III	公益目的事業 3	18
	展示会事業	18
	(1) 展示会の開催	
	(2) 新技術等のインターネットによる情報提供	
IV	公益目的事業 4	20
	協力・支援事業	20
	(1) 「防災エキスパート（高速道路サポーター）」への協力・支援	
	(2) 高速道路における救急救命対策への協力・支援	
V	収益事業 1	20
	調査研究事業	20

【2】 組織運営

1	会員	22
	(1) 賛助会員	
	(2) フェロー会員	
2	評議員会、理事会	22
3	業務執行体制、内部管理体制、情報管理	24
	(1) 業務執行体制	
	(2) 内部管理体制	
	(3) 情報管理	

目次【1】事業計画Ⅰ～Ⅴの事業内容は次のとおり

○ 公益目的事業1（調査研究事業、情報提供事業）

高速道路などの経済的、技術的諸課題に関する調査研究および研究助成ならびに事業活動から得られた有用な情報の提供、普及・啓発を通して科学技術の振興に寄与する事業

○ 公益目的事業2（講習等事業）

高速道路の建設・管理・運営に携わる広範な人材の能力開発、技術力向上に資する講習会などの実施および海外道路調査などの機会の提供ならびに高速道路の点検診断に関する資格制度によって人材の育成を図る事業

○ 公益目的事業3（展示会事業、新技術等のインターネットによる情報提供）

高速道路に関する新技術・新工法、新サービスなどの普及・活用促進を図る展示会の開催などを通して技術開発を促進し高速道路の適正な建設整備、管理保全に寄与する事業

○ 公益目的事業4（協力・支援事業）

高速道路の安全性・信頼性・利便性の向上など社会に貢献する目的の事業

○ 収益事業1（調査研究事業）

受託契約による調査研究および協力・支援業務の実施

【1】事業の報告

(公財) 高速道路調査会中期事業計画(2024～2028年度)および令和6年度事業計画書に基づいて実施した事業の経過と実績について報告する。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策として取り組んできたウェブ等を活用した事業を継続し、また効率的な事業の展開・体制の構築などを推進・実施してきたことにより、当初計画どおりの成果が得られた。

I 公益目的事業1

1 調査研究事業

学識経験者によって構成する「総合研究委員会」を設置し、総合的に調査研究活動の方針を審議する。この審議結果に基づき各研究部会(経済・経営研究部会、道路・グリーンインフラ研究部会、交通・サービスクオリティ研究部会)は、高速道路などに関する社会経済、技術や環境保全など具体的な研究テーマを設定し調査研究を行った。また、有識者によるより専門的なテーマについての講演会を総合研究委員会で主催した。

● 総合研究委員会 (藤野陽三 委員長)

第1回：令和6年11月26日

第2回：令和7年3月28日

日 時	令和7年2月7日	
場 所	公益財団法人高速道路調査会 会議室(ライブ配信)	
聴講者数	155名(うちライブ配信聴講者：117名)	
プログラム	[演題]	[講師]
	日本の道路政策、高速道路政策を振り返る ～ドイツの交通政策からの示唆も含めて～	早稲田大学 名誉教授 杉山 雅洋 氏

(1) 調査研究

各研究部会は、研究課題ごとに当該分野に精通する学識経験者と経験豊富な専門家などから構成する専門研究委員会を設け、調査研究を行った。

研究にあたっては、講習等事業と連携を図り研究成果を積極的に情報発信するほか、若手研究者などとの人的ネットワークの拡充を目指した。

● 経済・経営研究部会 (根本敏則 部会長)

高速道路整備による経済効果、有料道路制度、総合交通政策および道路事業の推進や枠組み、関連する法令などについて調査研究を行った。

第1回：令和6年10月21日

第2回：令和7年3月12日

◇ 諸外国における AET および走行距離課金の導入状況に関する調査研究委員会 (加藤一誠 委員長)

諸外国における(AET料金収受のキャッシュレス化)や走行距離課金の導入状況を調査し、日

本の高速道路料金制度への示唆や持続可能な高速道路料金制度の検討を行う。

今年度は、諸外国の経験から見た日本への示唆について調査研究を行い、今まで委員会の中で検討し、整理・報告を行ってきた内容について取りまとめ、委員会報告書を作成し、12月に公表した。(令和4年度からの継続)

第1回：令和6年6月10日

第2回：令和6年10月28日

◇ **高速道路と物流施策動向に関する調査研究委員会**(手塚広一郎 委員長)

「総合物流施策大綱(2021年度～2025年度)」が令和3年6月に閣議決定され、物流DXの推進など今後の物流が目指すべき方向性が示されたことから、施策動向の把握や高速道路への対応状況などを踏まえ、今後の物流における高速道路のあり方などの検討を行う。

今年度は、総合物流施策大綱における高速道路関連の各施策を把握し、社会的見地から望ましい物流施策を実現するために、高速道路が果たす役割について、調査研究を行った。

なお、当初計画より1年延期し、令和7年度までとした。(令和4年度からの継続)

第1回：令和6年9月10日

第2回：令和7年3月11日

◇ **諸外国における自動運転に係る法制度に関する調査研究委員会**(委員長未定)

世界では、自動運転車の技術開発が進み、日本、米国、欧州、中国などが先を争って、法制度の改正に取り組んでいる。

ドイツでは、世界に先駆けて令和3年にSAEのレベル4に対応する法律(通称自動運転法)を成立させた。日本においても、SAEのレベル4に対応した道路交通法が令和5年4月から施行されている。このような背景の下で自動運転先進国における法制度の検討状況を調査して、道路管理者から見た自動運転に係る法制度を検討する。

今年度は、委員会の立ち上げに向けて準備を行い、第2回経済・経営研究部会(令和7年3月12日)において、委員会設置を審議し、了承された。(令和7年度新規)

○ **道路・グリーンインフラ研究部会**(西村和夫 部会長)

高速道路の建設と維持管理の技術、景観、環境および道路緑化の向上と啓発について調査研究を行った。

第1回：令和6年11月5日

第2回：令和7年3月13日

◇ **高速道路の景観史に関する調査研究委員会**(中村良夫 委員長)

名神・東名高速道路といった高速道路建設の初期から、安全で快適な運転に必要な道路の計画・設計に関する検討を端緒として開始された景観研究は、以後、約60年間余にわたり土木分野での景観の理念とともに実践的アプローチがなされてきた。

この間の高速道路における景観の実践的アプローチについて、時代的・社会的背景と関連付けつつ書き留めることは、高速道路の普遍的役割を深く理解し確認する上で必要性が高く意義がある。また、今後のインフラ整備や更新のあり方を問う上で、新しい生活様式や社会経済の変革を見据えた道路空間の創造、美しさやゆとりのある社会文化環境の形成に寄与することは、高速道路に関わる技術者として大変重要なことである。

今年度は、委員会で報告書原案を議論して方針を確認し、令和7年度の頒布に向けて執筆作業を進めた。(令和4年度からの継続)

第1回：令和6年7月30日

第2回（最終）：令和6年10月28日

◇ **高速道路のカーボンニュートラルに向けた総合的な施策等に関する基礎的研究委員会**（石田東生 委員長）

2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、国を挙げて産官学が連携した取組みが始まっている。国土交通省でもグリーン社会の実現に向けた「国土交通グリーンチャレンジ」（令和3年7月）が策定され、2050年の長期を見据えつつ、2030年度までの10年間に重点的に取り組む分野横断・官民連携のプロジェクト、政策パッケージを取りまとめ、戦略的に実施することとされた。

本研究は、これらの背景を踏まえて、高速道路事業においてカーボンニュートラルに貢献できる項目を整理・提言することを目的に行うものである。

今年度は、高速道路のライフサイクルおよび高速道路利用の両観点からCO₂排出量の算定（案）、施策体系（素案）の取りまとめを行った。さらに、他分野との連携の観点から施策体系（素案）の作成を行い、今後の小委員会の方針について委員長と議論した。（令和4年度からの継続）

第1回小委員会（ライフサイクル）：令和6年5月9日

第1回小委員会（高速道路利用）：令和6年5月9日

◇ **高速道路における橋梁技術の変遷に関する調査研究委員会**（二羽淳一郎 委員長）

わが国最初の高速道路「名神高速道路」が開通してまもなく60年が経過しようとしており、約9,200kmの高速道路が供用されている。その内、橋梁数は約21,000橋が建設されてきた。

本研究では、1986年4月に取りまとめられた『高速道路の橋』に続く形で、それ以降に建設、改築、大規模補強などを行った橋梁を抽出、取りまとめを行い、新たな『高速道路の橋』を作成、頒布し、高速道路における橋梁技術の記録、技術の伝承を図ることを目的とする。

今年度は、掲載する橋梁の選定を行い、高速道路会社6社で合計160橋を最終決定するとともに、付属資料を含めた掲載方針の確認を行った。（令和5年度からの継続）

第1回：令和6年5月27日

第2回：令和7年2月3日

◇ **「写真で見る保全業務」の改訂に向けた委員会**（池田隆成 委員長）

経年的な劣化による高速道路資産の機能が低下する「老朽化」が加速的に進み、将来にわたり継続して高速道路の機能をいかに健全に保つかというメンテナンス時代に対応することが保全業務の課題である。

また、環境への関心の高まり、お客様ニーズの多様化などによる事故防止対策・渋滞対策・情報提供の充実、車両の大型化（重量化）・耐震対策や集中工事の導入など、その業務内容は年々高度化、複雑化、多様化している。

このような背景のなか、平成元年5月に初刊として現場写真を数多く掲載し、保全業務の業務内容について分かりやすく解説した『目で見る維持管理』を発行した。さらに、平成8年4月には「最新の業務内容の反映、初心者向けの保全業務全体を学習・理解するに適した内容とする」ことを主眼に見直しを図り、『写真で見る保全業務』として改訂し、初版と同様、保全業務の経験の浅い方々や高速道路事業者以外の方々にも、保全事業を理解していただく機会によく利用されてきた。そのため、平成16年10月に記載内容について見直しを図り、保全業務の実態に合致した内容に改訂を行った。

平成16年の改訂から既に20年が経過しており、「新技術・新工法等新たな事業内容の追加」、「関係要領の改訂等に整合した説明文の見直し」、「掲載写真の全面見直し等」を主眼に、より現状の保全業務に合致した内容に見直しを行い、高速道路関連技術の研修や高速道路の

保全業務を紹介するための資料として活用されることを目的に改訂作業を行うものである。

今年度は、目次（案）作成、執筆者（案）の選定を行った。（令和6年度新規）

第1回委員会：令和6年12月9日

第1回執筆委員会：令和7年2月12・13日

◇ **高速道路の緑化史に関する調査研究委員会**（藤井英二郎 委員長）

名神高速道路を緒とするわが国の高速道路は景観との調和を理念として、のり面や中央分離帯の緑化に関する技術を開発し、道路の安全と快適な運転に資する道路空間を形成した。以降、騒音、大気汚染などの公害から、循環型社会、地球温暖化防止、さらには生物多様性の保全など、社会情勢や国等の動きに応じて緑化の技術や施策を講じてきた。一方で生活様式の変化や地域防災などの観点から休憩施設やのり面の緑化も変化を遂げてきている。

本研究では、日本道路公団の草創期から今日に至るまで行われてきた高速道路の緑化について、学識経験者や技術者等の経験や教訓を含め多角的にみつめ、今日の、そしてこれから高速道路の緑化を担う技術者および緑化に関わる方々に伝える緑化史として取りまとめることを目的とする。

今年度は、緑化史編纂の基本方針案を提示するとともに、目次と記載項目・内容について審議した。（令和6年度新規）

第1回：令和7年3月18日

○ **交通・サービスクオリティ研究部会**（大口敬 部会長）

高速道路の交通の技術、および高速道路利用者へのサービス、道路機能、道路の高度活用の向上と啓発について調査研究を行った。

第1回：令和6年11月1日

第2回：令和7年3月4日

◇ **高速道路における交通ビッグデータの活用に関する調査研究委員会**（兵頭哲朗 委員長）

本委員会では、自動運転、5G通信規格、MaaS(Mobility as a Service)の普及等を見据え、リアルタイムで移動に関する大量のデータが容易かつ低遅延に取得が可能となる環境下において、高速道路会社が中長期的観点で取り組むべき利用者サービスについて検討を実施し、令和6年3月の最終委員会で取りまとめを行った。

今年度は、委員会報告書を作成して5月に公表した。（令和6年度終了）

◇ **高速道路での居眠り運転防止対策の効果に関する調査研究委員会**（倉内慎也 委員長）

本委員会では、居眠り運転が想起される重大事故防止に向けた対策とその効果について、ドライビングシミュレーターを活用した視覚刺激、聴覚刺激、会話の影響等の分析や、運転中の生体データを活用した分析などを実施し、令和6年3月の最終委員会で取りまとめを行った。

今年度は、委員会報告書を作成して6月に公表した。（令和6年度終了）

◇ **高速道路等における大型車長時間駐車対策に関する調査研究委員会**（内山久雄 委員長）

本委員会では、高速道路SA・PAの混雑解消およびトラックドライバーの労働環境改善に向け、高速道路を取り巻く動向変化や大型車長時間駐車の実状・課題の分析を行った上で、課題解決に向けた方向性や具体策について検討を行い、令和6年3月の最終委員会で取りまとめを行った。

今年度は、委員会報告書を作成して6月に公表した。（令和6年度終了）

◇ **高速道路の活用による移動の利便性・快適性向上施策等に関する基礎的研究委員会**（朝倉康夫 委員長）

鉄道等交通事業者や行政を中心として、MaaS(Mobility as a Service)に向けた取組みが既に各地で展開されており、今後、日本国内における交通の利便性・快適性の向上が期待されている。一方、現在のところ高速道路会社が参画している事例は少なく、また、交通結節点となり得る SA・PA を含め、現時点では他事業者との連携において高速道路が十分に活用されている状況ではない。将来の人口減少、高齢化、ドライバー不足や働き方改革による物流システムの改革、インバウンドの増加などの今後の社会環境変化、将来の高速道路の利用のされ方や需要の変化を見据え、将来的に高速道路空間を活用した移動の利便性・快適性向上に資するサービスについて、今から 5～10 年先の展望を含めて提案することを目的とする。

今年度は、幅広い社会経済情勢の観点から MaaS に関する情報収集等を行い、取組みの現状および課題、問題点等を整理した先行事例をもとに高速道路会社 6 社への関心事項（取り組みたい方向性）について調査を行った。（令和 6 年度新規）

第 1 回委員会：令和 7 年 2 月 5 日

◇ **高速道路での居眠り運転防止対策の効果に関する調査研究委員会**（倉内慎也 委員長）

本委員会では、居眠りに加えて漫然運転の観点から高速道路で実施対策の効果向上および新たな対策の実装に向けて、高速道路でドライバーを覚醒させるために DS 実験等を活用して視覚刺激（光の強度や色、設置間隔等）、聴覚刺激（音量や音質、内容等）の検証を行い、現場での試行実施とその効果について検証することを目的とする。

今年度は、コアメンバーによる調整会議および役割分担も含め方向性について委員長と議論を行った。（令和 6 年度新規）

(2) 研究助成

研究活動の活性化、若手研究者の育成および実務者による研究の奨励を目的に、研究助成に重点を置き、高速道路などに関連する社会的・経済的・技術的な研究課題を公募し、応募課題の中から選定した研究について助成を行う。特に、若手研究者の応募が増える募集方法を実施する。

今年度は、令和 6 年 3 月に助成決定し、5 月に助成金を支援した以下の 11 件の研究が行われた。

令和 6 年度 研究助成決定課題

研究課題	所属機関	代表者
高速道路事業の評価における費用便益分析と多基準分析の総合的評価手法に関する研究—持続可能な社会資本整備のための意思決定支援—	東京都立大学 都市環境科学研究科 教授	朝日 ちさと 氏
高速道路の整備効果に対する市町村や地域経済団体の期待と高速道路の効果を生かすための施策に関する研究	早稲田大学大学院 教育学研究科 修士課程 (共同研究者) 早稲田大学 総合・科学学術院 教授	植 遥一朗 氏 箸本 健二 氏
ポストコロナ時代におけるスマート IC 周辺エリアの社会経済効果の評価に関する研究	豊橋技術科学大学大学院 工学研究科 教授 (共同研究者)	洪澤 博幸 氏 崔 明姫 氏

	豊橋技術科学大学大学院工学研究科 助教	
精緻な高速道路の運用と維持管理に向けた動的な起終点交通量の確率論的予測	東北大学大学院 情報科学研究科 教授 (共同研究者) 東北大学大学院 情報科学研究科 博士後期	井料 隆雅 氏 石原 雅晃 氏
鋼道路橋の腐食損傷部に対する当て板溶接補修に関する研究	大阪大学大学院 工学研究科 准教授	廣畑 幹人 氏
時間反転法を用いた鋼床板中の疲労き裂検出のための DX 超音波非破壊検査の開発	群馬大学大学院 理工学府 准教授	斎藤 隆泰 氏
岩内微生物による岩石風化と切土のり面崩壊プロセスの関連性解明	琉球大学 工学部工学科 准教授 (共同研究者) 国立研究開発法人防災科学技術研究所 客員研究員	松原 仁 氏 大角 恒雄 氏
腐食した鋼ケーブル系部材の残存耐力評価法に関する研究	神戸大学大学院 工学研究科 准教授	橋本 国太郎 氏
自然斜面・切土・盛土を統合した道路法面地震リスク評価と集落孤立予測のための基礎的研究	群馬大学大学院 理工学府 教授	若井 明彦 氏
Edutainment による漫然運転予防効果の実験的検討	愛媛大学大学院 理工学研究科 准教授	倉内 慎也 氏
リニア山梨県駅に隣接するスマート IC を活用したカーボンニュートラルなアクセス交通の導入	山梨大学 土木環境工学科 教授 (共同研究者) 山梨大学 土木環境工学科 特任助教	武藤 慎一 氏 劉 星委 氏

また、令和7年度の研究助成課題について以下の活動を行い、21件の応募の中から下表のとおり12件の助成課題を決定した。

- ・募集要領の審議（令和5年度成果の報告もあわせて実施）
 - 経済・経営研究部会…令和6年10月21日
 - 道路・グリーンインフラ研究部会…令和6年11月5日
 - 交通・サービスクオリティ研究部会…令和6年11月1日
- ・募集要領の決定 総合研究委員会…令和6年11月26日
- ・募集期間 令和6年12月1日～令和7年1月31日
- ・助成対象の審議
 - 経済・経営研究部会…令和7年3月12日
 - 道路・グリーンインフラ研究部会…令和7年3月13日
 - 交通・サービスクオリティ研究部会…令和7年3月4日
- ・助成対象の決定 総合研究委員会…令和7年3月28日

令和7年度 研究助成決定課題

研究課題	所属機関	代表者
高速道路を支える有料道路制度および占用許可制度・立体道路制度の法的研究	駒澤大学法学部法律学科 准教授 (共同研究者) 千葉大学大学院 社会科学研究院 准教授	高田 実宗 氏 齋藤 健一郎 氏
密集市街地における多主体協働型の道路高架下利活用に向けた法制度変遷及び実践に関する研究	富山大学大学院理工学研究科都市・交通デザイン学プログラム 修士課程 (共同研究者) ①富山大学都市デザイン学部都市・交通デザイン学科 助教 ②鳥取大学工学部社会システム土木系学科 助教	松尾 蒼平 氏 ①王 永成 氏 ②吉野 和奏 氏
機械学習を用いた舗装工事現場の労働環境・生産性データ収集分析システム構築に関する研究	東京都市大学 建築都市デザイン学部都市工学科 准教授 (共同研究者) 大成ロテック株式会社 技術本部 技術部 課長代理	五艘 隆志 氏 武藤 一伸 氏
アスファルト舗装の粘弾性特性を考慮した疲労強度向上効果の定量的評価	京都大学大学院工学研究科 社会基盤工学専攻 助教	松本 理佐 氏
深層生成モデルとベイズ推論による既存免震橋モデル更新に関する研究	北海道大学大学院工学研究科 土木工学部門 准教授	北原 優 氏
車両-橋梁相互作用系シミュレーションに関する研究	筑波大学システム情報系 准教授	山本 亨輔 氏
風化が進んだ切土のり面の植生による補強メカニズムの解明	京都大学学術情報メディアセンター計算科学研究分野 教授	菊本 統 氏
離散的なフェアリングを用いた橋梁の耐風性向上に関する研究	京都大学大学院工学研究科 社会基盤工学専攻 助教 (共同研究者) ①京都大学大学院 工学研究科 博士学生 ②京都大学大学院 工学研究科 准教授 ③京都大学大学院 工学研究科 教授	野口 恭平 氏 ①Thei 氏 ②松宮 央登 氏 ③八木 知己 氏
高速道路走行中の逆走車検知と警報システムに基づく事故防止基盤システムに関する研究	一関工業高等専門学校 未来創造工学科 電気・電子系 助教	川合 勇輔 氏

気温および道路施設環境がドライバーの運転挙動・ストレスに及ぼす影響に関する研究	宮崎大学 工学部 准教授 (共同研究者) 立命館大学 理工学部 教授	嶋本 寛 氏 塩見 康博 氏
サービスエリア・パーキングエリアにおける「ご当地グルメ」の提供による地域価値向上と物語経験に関する研究	文教大学 国際学部国際観 光学科 専任講師	青木 洋高 氏
活断層変位を受けるシールドトンネルの挙動に関する研究	京都大学大学院工学研究科 都市社会工学専攻 博士課程 (共同研究者) ①京都大学 都市社会工学科 准教授 ②京都大学 都市社会工学科 教授	曾 冠雄 氏 ①澤村 康生 氏 ②岸田 潔 氏

2 情報提供事業

学識経験者や専門家によって構成する「情報提供事業委員会」および「編集委員会」を設置し、情報提供事業の基本方針や運営方法などを審議した。この審議結果に基づき、当法人で実施した調査研究の成果ならびに海外の高速道路を含む幅広い分野の各種情報などを広く社会に普及・活用されるよう当法人のウェブサイトや機関誌などを通して発信し提供した。また、インターネットを利用することで、高速道路の役割や必要性について効果的・効率的に情報提供できるよう当法人ウェブサイトの充実を図った。

なお、研究発表会や講演会などは、他機関の技術者継続教育（CPD：Continuing Professional Development）プログラム制度を活用し、より多くの参加者を募るよう努めた。

○情報提供事業委員会

令和7年2月19日

(1) 機関誌『高速道路と自動車』の発行

高速道路と自動車などに関する諸問題や技術課題について取りあげる『高速道路と自動車』を毎月発行した。本誌の編集方針および掲載内容は「編集委員会」で、「技術レポート」欄に投稿のあった内容は「技術レポート委員会」で審議し掲載した。

今年度は、特集として6月号で「高速道路 SA・PA における利便性向上」、9月号で「高速道路のインフラマネジメント」、10月号で「高速道路のロードプライシング」を企画した。また、機関誌の質の向上と「技術レポート」コーナーへの投稿意欲の向上を図るため「技術レポート表彰制度」を導入し表彰した。さらに機関誌の掲載記事を電子化し、キーワード検索が可能なプラットフォームの方針を決めた。

○編集委員会

第1回：令和6年5月23日

第2回：令和6年8月20日

第3回：令和6年12月5日

第4回：令和7年2月21日

○技術レポート委員会

- 第1回：令和6年4月10日
- 第2回：令和6年7月31日
- 第3回：令和6年12月4日

- 技術レポートの表彰
令和6年5月20日

○表彰論文

〈最優秀賞〉

「本線用低位置照明の開発」		『高速道路と自動車』令和6年3月号掲載
安宅 脩 氏	西日本高速道路(株)技術本部施設部施設技術課	

(所属等は掲載時のもの)

〈優秀賞〉

「床版取替工事における片側2車線の確保 —中央自動車道 多摩川橋—」		『高速道路と自動車』令和5年8月号掲載
新田和音 氏	中日本高速道路(株)八王子支社八王子保全・サービスセンター工事担当	
宮 瀧英次 氏	中日本高速道路(株)八王子支社八王子保全・サービスセンター工事担当課長	
早野智彦 氏	中日本高速道路(株)八王子支社八王子保全・サービスセンター工事担当係長	
「航空レーザ測量データを活用した高速道路への土砂流入災害リスク箇所の抽出に向けた取組み」		『高速道路と自動車』令和5年4月号掲載
村上豊和 氏	(株)高速道路総合技術研究所 道路研究部土工研究室 主任研究員	

(所属等は掲載時のもの)

〈奨励賞〉 4編

(2) 「道路と交通論文賞」の表彰

道路と交通に係わる新進気鋭の研究者を育成し、実務者による研究を奨励することを目的として、『高速道路と自動車』に投稿・掲載された研究論文を対象に「道路と交通論文賞」の表彰を行った。選考は、学識経験者と経験豊富な専門家で構成する「道路と交通論文賞選考委員会」で審査・選考し授賞論文を決定した。

今年度は、研究論文の投稿増を目指し、研究論文として掲載された論文は「道路と交通論文賞」の選考対象になることが確実に伝わるよう、査読の公正さを提示し、投稿要領等の表現を一部見直した。

- 第44回道路と交通論文賞選考委員会

技術部門：令和6年5月14日

- 論文賞の表彰

令和6年6月4日

- 表彰論文

「IH塗膜剥離を想定した加熱が高力ボルト継手のすべり耐力に及ぼす影響」		『高速道路と自動車』令和5年10月号掲載
廣畑幹人 氏	大阪大学大学院工学研究科 准教授	
中原智法 氏	日本橋梁(株)事業開発グループ技術開発チーム チームリーダー	

(所属等は掲載時のもの)

(3) 調査研究成果等の出版、研究報告書・関係資料の閲覧等

調査研究成果および高速道路の社会的・経済的・技術的な諸課題に関する知識などの普及・活用の促進を図ることを目的に、各種出版物の販売や閲覧サービスを行った。

今年度は、現在販売中で発行および改訂から10年以上経過している書籍について、改訂版の発行方針を見直し、『写真でみる保全業務（改訂版）』（平成16年10月発行）の改訂作業に着手した。

(4) 講演会の開催

国内外の高速道路などに関する知識の普及・啓発ならびに高速道路事業への理解促進を目的として、学識経験者・官公庁・高速道路事業者および民間企業の有識者などを講師に迎え講演会を開催した。

なお、聴講者の利便性等に配慮し、東京および大阪の講演会について、研究発表会との2日間併催し、オンデマンド配信を実施した。

○東京

日 時	令和6年7月18日（木）	
場 所	星稜会館（東京都千代田区）	
聴講者数	247名（うちオンデマンド配信聴講者：91名）	
プログラム	[演 題]	[講 師]
	東日本高速道路株式会社の最近の取組み	東日本高速道路株式会社 経営企画本部 経営企画部 計画調整課長 辻 功太 氏
	首都高速道路株式会社の最近の取組み	首都高速道路株式会社 経営企画部 経営戦略課長 江水 淳 氏
	西日本高速道路株式会社の最近の取組み	西日本高速道路株式会社 経営企画本部 経営企画部 企画担当課長 松本 崇 氏
	阪神高速道路株式会社の最近の取組み	阪神高速道路株式会社 計画部 次長 上田 勝久 氏
	本州四国連絡高速道路株式会社の最近の取組み	本州四国連絡高速道路株式会社 企画部 企画課長 小河 正次 氏
	中日本高速道路株式会社の最近の取組み	中日本高速道路株式会社 経営企画本部 経営企画部 経営企画課長 原田 雅也 氏

○大阪

日 時	令和6年11月28日（木）	
場 所	AP 大阪駅前 AP ホール（大阪府大阪市）	
聴講者数	171名（うちオンデマンド配信聴講者：46名）	
プログラム	[演 題]	[講 師]
	新しい高規格道路ネットワークのあり方 ～国土形成計画を踏まえて～	東京工業大学・神戸大学 名誉教授 朝倉 康夫 氏
	PPP/PFI におけるコンセッションの バリュエーション（価値評価）	インフロニア・ホールディングス株式会社 取締役 代表執行役社長 兼 CEO 岐部 一誠 氏

(5) 研究発表会の開催

当法人の調査研究の活動成果や助成対象とした研究などを広く一般に公表し、普及・活用の促進を図ることを目的として研究発表会を開催し、積極的に情報発信した。

また、講演会同様、オンデマンド配信を実施した。

○東京

日 時	令和6年7月19日（金）	
場 所	星稜会館（東京都千代田区）	
聴講者数	160名（うちオンデマンド配信聴講者：80名）	
プログラム	[研究助成対象発表]	[発表者]
	高速道路長距離運転ドライバーの休憩行動を考慮したSA/PA整備に関する研究	東京都立大学 都市環境学部 都市基盤環境学域 助教 柳原 正実 氏
	膨潤性地山に掘削したトンネルの時間遅れ変状メカニズムと長期安定性評価方法に関する研究	横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 准教授 崔 瑛 氏
	凍結防止剤による腐食劣化が進行したPC箱桁橋の安全性評価に関する研究	金沢工業大学 工学部 環境土木工学科 教授 田中 泰司 氏
	道路斜面の地下水分布を見える化できるIoT地盤変状検知センサーの開発	長崎大学大学院 工学研究科 教授 大嶺 聖 氏
	舗装ひび割れからの雨水浸透と下層路盤の浸食に関する研究	山口大学大学院 創成科学研究科 教授 中島 伸一郎 氏
	[研究発表]	[発表者]
	諸外国におけるAETおよび走行距離課金の導入状況に関する調査研究(その3)	研究第一部 部長代理 狩野 禎久
	高速道路における大型車長時間駐車対策に関する調査研究	研究第二部 担当部長 市岡 隆興
	第65回海外道路調査団報告	株式会社ネクスコ・エンジニアリング東北 交通環境部 交通技術課 係長 高橋 基夫 氏

○大阪

日 時	令和6年11月29日（金）	
場 所	AP大阪駅前 APホール（大阪府大阪市）	
聴講者数	89名（うちオンデマンド配信聴講者：26名）	
プログラム	[演題]	[講師]
	杭頭部に地盤改良を施した複合基礎における地盤の側方流動に対する抵抗性に関する研究	京都大学大学院 工学研究科 准教授 澤村 康生 氏
	高速道路SAにおける地域密着型サービス提供事業の基本的課題	山梨大学 名誉教授 西井 和夫 氏

	：多様な利害関係者の関心と参加のあり方に着目して	
	因果効果の異質性を考慮した高速道路インターチェンジ整備効果の推定	神戸大学大学院 工学研究科 教授 織田澤 利守 氏
	降雪時の高速道路マネジメントを支援する積雪状態把握と高速道路走行状態の予測に関する研究	早稲田大学 創造理工学部 社会環境工学科 教授 佐々木 邦明 氏
	[研究発表]	[発表者]
	高速道路における交通ビッグデータの活用に関する調査研究	研究第二部 担当部長 市岡 隆興
	高速道路での居眠り運転防止対策の効果に関する調査研究	研究第二部 担当部長 安松谷 隆之
	高速道路の景観史に関する調査研究	研究第二部 担当部長 市岡 隆興
	第 65 回海外道路調査団報告 ～米国 ITS・走行中給電等調査～	東日本高速道路株式会社 関東支社 建設事業部 構造技術課 中村 優一 氏

(6) 海外道路情報の収集・提供

海外の道路関係機関で発行している機関誌や公表している報告書・ウェブサイトなどから日本の高速道路事業に有益と考えられる情報や当法人で実施した調査研究活動の中で収集した海外の道路関連情報を当法人の機関誌やウェブサイトを通して広く一般に提供した。

○『高速道路と自動車』での情報提供

掲載コーナー	掲載内容	掲載月	備考
海外ニュース	道路事業全般、建設、維持管理、有料道路経営、料金、環境、情報提供、ITS、ETC、新技術・新工法等に関する話題	毎月（18件/月程度）	年度累計 217 件（令和 6 年 4 月号～令和 7 年 3 月号）
報告	第 121 回 REAAA 評議員会出席報告	R6. 6 月号	
	ITS America2024 会議出席報告	R6. 7 月号	
	第 66 回海外道路調査団報告	R6. 10 月号	
	第 122 回 REAAA 評議員会出席報告	R6. 12 月号	
	第 30 回 ITS 世界会議 2024 ドバイの概要	R7. 2 月号	
	海外留学報告 米国	R7. 2 月号	
	第 67 回海外道路調査団報告	R7. 3 月号	
紹介	海外留学報告 英国	R7. 3 月号	
	イギリスの道路交通分野でのゼロ・エミッション戦略の動向	R6. 5 月号	
	ドイツ アウトバーンにおける大型車課金の現状	R6. 9 月号	
	ニューヨーク市中心地区混雑課金の迷走	R6. 10 月号	

○ウェブサイトでの情報提供

『高速道路と自動車』令和6年4月号～令和7年3月号「海外ニュース」に掲載した記事をウェブサイト上で提供した。

(7) 国際道路機関との情報交換・交流

海外の高速道路における経済・技術に関する情報を収集することを目的として、道路関係の国際機関に加盟し、各機関が主催する国際会議への参加を通して、情報交換や人的な交流などを行った。

今年度は、WRA-PIARC、IRF、REAAA、TRB、EASTS-JAPAN、IBTTAに継続して加盟し、収集した有益な情報は、調査研究の基礎資料として利用するとともに、当法人の機関誌やウェブサイトなどを通じて広く一般に発信した。

○ITS America2024 会議出席 : 令和6年4月22日～25日

○第122回REAAA評議員会出席 : 令和6年9月3日

<加盟団体>

機関名略称	機関名	本部
WRA-PIARC	World Road Association-Permanent International Association for Road Congress (世界道路協会)	フランス
IRF	International Road Federation (国際道路連盟)	アメリカ
REAAA	Road Engineering Association of Asia & Australasia (アジア・オーストラレーシア道路技術協会)	マレーシア
TRB	Transportation Research Board (交通運輸研究会議)	アメリカ
EASTS-Japan	Eastern Asia Society for Transportation Studies-Japan (アジア交通学会)	日本
IBTTA	International Bridge, Tunnel and Turnpike Association (国際有料道路協会)	アメリカ

II 公益目的事業 2

講習等事業

高速道路事業の専門家などにより構成する「講習等事業委員会」を設置し講習会の開催企画や海外道路調査団の派遣ならびに海外に留学する者への支援などを審議した。

講習会は、高速道路の建設・管理・運営に携わる人材の育成を効果的・効率的に進めるため、関係機関と調整しニーズを見極めるとともに、当法人の調査研究事業の蓄積や幅広い人的ネットワークなどの特徴を活かして企画・運営し継続的に充実を図った。

○講習等事業委員会

第1回：令和6年6月10日

第2回：令和7年3月3日

(1) 講習会

真に当法人が開催すべき講習会を厳選するとともに、より実務者に有益な講義となるようカリキュラムの改善を図り、高速道路の建設と維持管理の業務に携わる技術者の技術力向上を目的とした「①建設・管理技術向上に資するための講習会」および高速道路の保安全管理業務の安全性向上のための「②保安全管理に関する講習会」ならびに今後の有料道路制度・料金制度のあり方を内外に提案および発信できる人材の育成を目的とした「③有料道路制度・料金制度に関する研修会」を継続して開催した。

① 建設・管理技術向上に資するための講習会

高速道路の建設・維持管理に携わる技術者の技術力向上を目的とした講習会および電気・通信・機械などの設備機器等に関する実務者向け講習会を開催した。(3プログラム、12コース)

○3プログラム12コース 受講者数1,479名 (R5:1,339名)

プログラム名	開催日	開催場所	受講者数/ 募集者数
1. 高速道路の現場監理に関する講習会			
土木 施設	10月11日～11月1日	ウェブ講習	1,060名 168名
2. 施設技術者実務講習会			
トンネル非常用設備	6月10～11日	埼玉県熊谷市	39名/39名
CCTV設備	6月26日	福島県郡山市	29名/30名
受配電設備	7月25～26日	山口県岩国市	20名/20名
交通量計測設備	令和7年2月6～7日	大阪府大阪市	24名/24名
自家発電設備-1	9月3～4日	滋賀県長浜市	20名/20名
自家発電設備-2	9月5～6日	滋賀県長浜市	20名/20名
トンネル換気設備	9月12日	愛知県春日井市	30名/30名
可変式道路情報板設備	9月19～20日	京都府城陽市	35名/35名
伝送設備	11月13～14日	東京都港区	20名/20名
3. 緑地点検講習会			
緑地点検講習会	12月11～13日	滋賀県湖南市	38名/40名

② 保全安全管理に関する講習会

高速道路上の交通規制を伴う作業を統括する立場の技術者として、作業の安全性および作業従事者と一般通行車両の安全を確保するための知識の向上ならびに現場指導を行う上での能力向上を目的とした講習会を開催した。本講習会を受講した新規コース受講者に対しては修了確認試験、更新コース受講者には修了確認レポート提出により修了審査を行った。

なお、本講習会と修了確認は、ウェブ化により1期間/年の開催とした。(1プログラム、1コース)

○1プログラム1コース 受講者数 3,313名 (R5: 3,008名)

プログラム名	開催日	開催場所	受講者数
保全安全管理講習会			
新規講習 修了審査	7月4～25日 7月18日～8月1日	ウェブ講習 確認試験	1,678名
更新講習 修了審査	7月4～25日 7月4日～8月1日	ウェブ講習 課題レポート	1,635名

③ 有料道路制度・料金制度に関する研修会

有料道路制度・料金制度について、研修生と学識経験者および実務経験者とのディスカッションや当法人における調査研究事業で蓄積した知見を活用し、さまざまな観点から考察することにより、今後の有料道路制度・料金制度のあり方を内外に提案および発信できる人材の育成を目的とした研修会を開催した。(1プログラム、1コース)

○1プログラム1コース

プログラム名	開催日	開催場所	受講者数/ 募集者数
有料道路制度・料金制度に関する研修会	第1回 7月25日～26日	東京都港区	13名/10名
	第2回 8月22日～23日		
	第3回 9月12日～13日		
	第4回 10月24日～25日		
	第5回 11月21日～22日		
	第6回 12月12日～13日		
	第7回 1月27日～28日		

※フィールドミーティング(研修生企画型研修) A班6名、B班7名、事務局1名

A班: 10月17日～18日 西日本高速道路(株)九州支社および佐世保道路(現地)

B班: 11月14日～15日 西日本高速道路(株)九州支社、八木山バイパス・関門トンネル(現地)

(2) 高速道路の点検診断に関する講習および資格付与

高速道路の安全性を高め、社会基盤の整備に寄与し、高速道路の点検診断技術者の育成と技術力向上を目的として、高速道路点検診断資格の講習会および資格試験を開催した。また、資格保有4年目および5年目となる者に対する更新講習会および更新試験を実施した。

○高速道路点検診断資格委員会

第1回: 令和6年5月15日

第2回: 令和7年1月15日

- 資格試験 受験者数 2,204名 (土木1,117名、施設1,087名)
(受験者数 R5:2,398名)
- 更新講習 受験者数 884名 (土木426名、施設458名)
(受験者数 R5:1,008名)

○開催概要

区分	開催日	開催場所
資格試験講習会	9月3日～25日	ウェブ開催
資格試験	10月20日～21日	札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡
更新講習会	11月6日～26日	ウェブ開催
更新試験	12月4日～18日	ウェブ開催

- 資格付与者数 1,193名
(土木) 診断士 78名・点検士 128名・点検士補 447名
(施設) 診断士 113名・点検士 204名・点検士補 223名
- 資格更新者数 884名
(土木) 診断士 63名・点検士 62名・点検士補 301名
(施設) 診断士 135名・点検士 204名・点検士補 119名

(3) 海外道路調査団の派遣

海外の高速道路に関する最新の話題や建設事業または維持・交通管理の現場および休憩施設等に着目し、現地における調査や意見交換を通して理解を深める機会を提供することを目的として、海外道路調査団を派遣した。

今年度は、新型コロナウイルス感染症による行動制限がないことから、コロナ前と同様に上半期1回、下半期1回実施した。

○実施状況

開催時期	訪問先	募集定員	参加人数	内 容
6月2日～6月8日	米国 ミシガン州 イリノイ州	20名	15名	ITS(コネクテッド車他)、インフラ管理のICT活用(点検、交通管理他)、雪氷対策
10月27日～11月2日	米国 インディアナ州 テキサス州	20名	24名	ITS、走行中給電、交通管理など

(4) 留学支援

人材育成の一環で、道路および道路交通に関する経済的・技術的な研究を目的とした海外留学希望者に助成支援を行うため、外部専門機関の語学力試験結果をもとに支援候補者を選定した。

今年度は、留学支援候補者として2名を決定した。

また、令和5年度に留学支援候補者に決定した3名が渡航を完了したことから支援金を支給した。

○対象者の留学先および所属

募集年度	留学先学校等名	国	専攻	課程	助成者所属会社
第 58 回 R5	南カリフォルニア大学	米国	経営学	修士	中日本高速道路株式会社
	クイーンズランド工科大学	豪州	土木工学	修士	首都高速道路株式会社
	デルフト工科大学	蘭国	土木工学	博士	阪神高速道路株式会社

Ⅲ 公益目的事業 3

展示会事業

主催者および共催者からなる「ハイウェイテクノフェア実行委員会」を設置し、開催方針や運営方法について審議した。

「ハイウェイテクノフェア」は、高速道路事業や高速道路を支える最先端技術を紹介し社会一般の理解を深めるとともに、技術開発に携わる企業などに情報交換あるいは広報の機会を提供して技術の普及促進を図ることを目的に開催した。

また、当法人ウェブサイトの「新技術電子カタログ」に、賛助会員およびハイウェイテクノフェア出展者から提供される技術情報を掲載し広く一般への情報提供も行った。

○ハイウェイテクノフェア実行委員会

第1回：令和6年 5月20日

第2回：令和6年 8月19日

第3回：令和6年 12月13日

(1) 展示会の開催

「ハイウェイテクノフェア 2024」を令和6年9月26日および27日に開催した。

今年度も東京ビッグサイトでのリアル展とオンライン展のハイブリッド開催を継続して行い、令和5年度と同数程度の来場者数を目指した。

また、国土交通省、公益社団法人土木学会、公益社団法人地盤工学会、公益社団法人プレストレストコンクリート工学会ならびに公益社団法人日本コンクリート工学会に後援を継続して依頼し、広く出展者を募った。さらに、技術者継続教育(CPD)プログラム制度を活用し、来場者の魅力度を高めた。

○展示会

展示会名	ハイウェイテクノフェア 2024 20th anniversary
会 期	「リアル展示」 令和6年9月26日(木)～9月27日(金) 「オンライン展示」 令和6年9月19日(木)～10月17日(木)
場 所	東京ビッグサイト 西1・2ホール
主 催	公益財団法人高速道路調査会
共 催	東日本高速道路株式会社 中日本高速道路株式会社 西日本高速道路株式会社
後 援	国土交通省、公益社団法人土木学会、公益社団法人地盤工学会、 公益社団法人プレストレストコンクリート工学会、 公益社団法人日本コンクリート工学会
出展者数	「リアル展示」 337者 (R5:281者) 「オンライン展示」 195者 (R5:250者)
来場者数	「リアル展示」 19,939名 (R5:18,197名) 「オンライン展示」 5,360名 (R5:3,220名)

○講演会

演 題	自動運転技術の将来展望～道路とクルマの新たなつながり～
講 師	白土 良太 氏 特定非営利活動法人 ITS Japan 常務理事 企画グループ 自動運転プロジェクトリーダー
日 時	令和6年9月27日(金) 13:30～15:00
聴講者数	396名(会場 349名、オンライン 47名) (R5: 512名(会場 372名、オンライン 140名))

(2) 新技術等のインターネットによる情報提供

技術情報収集の効率化、企業の技術開発支援や新技術などの普及促進を目的として、賛助会員およびハイウェイテクノフェア出展者から提供された新技術・新工法・新製品に関する技術情報をデータベース化した「新技術電子カタログ」を当法人のウェブサイトで提供した。

令和6年度末の登録技術数は1,246、アクセス数は531,758であった。

IV 公益目的事業 4

協力・支援事業

高速道路上の災害などへの諸対策や高速道路における救急救命対策への協力・支援など、社会に貢献する事業を実施した。

(1) 「防災エキスパート（高速道路サポーター）」への協力・支援

高速道路などにおける大規模災害発生時の支援や平常時の点検・訓練・技術力の向上および技術伝承などについて、高速道路の建設・管理に従事した経験者のボランティアからなる「防災エキスパート（高速道路サポーター）」活動を支援した。

今年度は、定期点検活動および全国各支部で開催された講演会などに延べ 670 名の会員が活動した。

令和 6 年度末の会員登録数は 615 名である。

○防災エキスパート運営連絡会

令和 7 年 2 月 28 日

(2) 高速道路における救急救命対策への協力・支援

高速道路の利用者や高速道路事業に携わるグループ社員等の方が一に備えることを目的として、高速道路事業に従事する方を対象に「AED 実技講習会」を開催した。

今年度も引き続き、60 分のオンライン講習と 180 分の集合型講習を設定し実施した。

講習会は 210 回・216 拠点で実施し 1,881 名（令和 5 年度は 177 回・158 拠点で実施し、1,545 名が参加、DVD 配布は 41 箇所）が参加した。

V 収益事業 1

調査研究事業

高速道路などの社会的・経済的・技術的な諸課題の研究に関連して、当法人での活動実績や能力の優位性を活かし受託契約などによる調査研究を行った。

今年度を実施した受託契約による調査研究は、12 件であった。

○令和 6 年度 海外における点検・保全管理技術動向調査業務

海外の高速道路の橋梁の維持管理で利用されるドローン及びその運用状況の調査業務、自動運転車の動向等に関する調査業務

○諸外国における高速道路事業の経営環境の動向に関する調査研究

諸外国の高速道路の整備状況、政策、関連法制度、財源、整備計画、実施方式等について、グローバルな観点から調査研究を行う業務

○令和 5 年度 次世代高速道路のあり方に関する資料作成業務

将来の高速道路に求められる機能、サービス、交通マネジメント等について調査研究を行う業務

○高速道路における PC 橋の設計法調査研究委員会運営に係る業務

「高速道路における PC 橋の設計法調査研究委員会」の委員会運営に係る資料作成、会議運

- 営、議事録作成等を行う業務。
- 横浜環状南線工事記録誌インタビュー業務（その1）
横浜工事事務所の釜利谷工事区の歴代工事長にインタビューし、工事記録誌の資料作成に資する音声データを作成する業務
 - 高速道路の緑地管理作業マニュアル検討業務
緑地の現況を調査し、問題点等を探りつつ、緑地管理に係る要領の難解部分を解説し、現場で緑地管理に携わる者が円滑に作業を行うためのマニュアルを作成する業務
 - 令和6年度 次世代高速道路のあり方に関する資料作成業務
将来の高速道路に求められる機能、サービス、交通マネジメント等について調査研究を行う業務
 - 令和6年度 海外における交通運用調査業務
海外における移動式防護柵の運用状況調査、製造会社へのヒアリングを通して日本への適用を検討する調査業務
 - 令和6年度 交通管理業務に関する調査業務
高速道路における規制材の運用状況調査、道路パトロール会社へのヒアリング、規制材の視認性を確認する走行試験などを行う調査業務
 - 令和6年度 海外高速道路先進事例等調査業務
海外高速道路の先進事例等の調査として、シンガポール・タイの課金システム等の調査を行う業務
 - 高速道路における施設設備のあり方検討についての有識者検討委員会運営に関する業務
「情報提供設備のあり方検討委員会」の委員会運営に係る資料作成、会議運営、議事録作成等を行う業務。
 - 高速道路における海外情報の収集・データベース化及び提供
海外の高速道路及び有料道路における最新の取組みや事例等の情報収集及びデータベース化を行う業務

【2】組織運営

1 会員

(1) 賛助会員

令和6年度末の賛助会員数は、法人会員374団体、個人会員13名で、賛助会費の合計は18,125万円であった。今年度中における賛助会員数の動向については、法人会員17団体、個人会員2名の新規加入に対し、退会は法人会員5団体、個人会員2名であった。

なお、調査研究事業の活動成果の公表実施や、情報提供事業・講習会事業・展示会事業を積極的に推進するなど、当法人の事業への理解や協力を得られるよう情報発信に努めた。

(2) フェロー会員

当法人の調査研究の委員や講演会などの講師として事業に携わった学識経験者をフェロー会員として登録し、引き続き当法人の事業への参画・協力を得られるよう努めた。(令和6年度末時点149名登録)

2 評議員会、理事会

令和5年度事業報告および決算、令和7年度事業計画書および収支予算書などについて審議を行うため、評議員会および理事会などを適宜開催した。

(1) 評議員会

第27回 評議員会(定時)

開催日	令和6年6月5日
開催場所	ルポール麹町
出席など	出席13名・欠席4名(決議に必要な出席評議員の数9名)
議事事項	(報告) 令和5年度事業報告
	(決議) 令和5年度決算の承認
	(決議) 役員を選任
	(報告) 理事会決定事項の報告

第28回 評議員会(決議の省略)

決議があったものとみなされた日	令和7年1月27日
決議があったものとみなされた事項	理事の選任

第29回 評議員会(臨時)

開催日	令和7年3月19日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	出席14名・欠席3名(決議に必要な出席評議員の数9名)
	(報告) 令和7年度事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類
	(報告) 理事会決定事項の報告

(2) 理事会

第 47 回 理事会(通常)

開催日	令和 6 年 5 月 10 日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	出席 7 名・欠席 1 名 監事 2 名 (決議に必要な出席理事の数 5 名)
議事事項	(決議) 令和 5 年度事業報告の承認 (決議) 令和 5 年度決算の承認 (決議) 規程の一部改正 (決議) 役員改選に伴う理事候補者の推薦 (決議) 顧問の委嘱 (決議) 評議員選定委員会外部委員の選任 (決議) 第 27 回定時評議員会の招集の決定

第 48 回 理事会(臨時)

開催日	令和 6 年 6 月 5 日
開催場所	ルポール麹町
出席など	出席 6 名・欠席 2 名 監事 2 名 (決議に必要な出席理事の数 5 名)
議事事項	(決議) 代表理事の選定 (決議) 業務執行理事、常務理事の選定

第 49 回 理事会(臨時)

開催日	令和 6 年 10 月 22 日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	出席 5 名 監事 2 名 (決議に必要な出席理事の数 5 名)
議事事項	(報告) 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告 (決議) 評議員候補者の推薦

第 50 回 理事会(通常)

開催日	令和 7 年 3 月 7 日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	出席 7 名・欠席 1 名 監事 2 名 (決議に必要な出席理事の数 5 名)
議事事項	(報告) 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告 (決議) 令和 7 年度事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類 (決議) 規程の一部改正 (決議) 役員との賠償責任限定契約の締結 (決議) 第 29 回臨時評議員会の招集の決定

(3) 評議員選定委員会

第 16 回 評議員選定委員会

開催日	令和 6 年 4 月 9 日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	出席委員 6 名 (うち外部委員 3 名) (決議に必要な出席委員の数 4 名 (うち外部委員 2 名以上))
議事事項	評議員の選任

第17回 評議員選定委員会

開催日	令和6年11月18日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	出席委員5名（うち外部委員3名） （決議に必要な出席委員の数3名（うち外部委員2名以上））
議事事項	評議員の選任

(4) その他

監事監査 および 第33回 監事意見交換会

開催日	令和6年5月1日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	監事2名 公益財団法人高速道路調査会 役職員6名
議事事項	令和5年度監事監査 第47回理事会議案説明

第34回 監事意見交換会

開催日	令和6年10月9日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	監事2名 公益財団法人高速道路調査会 役職員5名
議事事項	第49回理事会議案説明

第35回 監事意見交換会

開催日	令和7年2月28日
開催場所	公益財団法人高速道路調査会
出席など	監事2名 公益財団法人高速道路調査会 役職員5名
議事事項	第50回理事会議案説明

3 業務執行体制、内部管理体制、情報管理

(1) 業務執行体制

事業規模、事業内容、事業執行状況を見極めた上で、各人の能力が最大限に発揮できるよう柔軟に組織・人員の配置の計画・見直しを実施した。また、経験豊富な人材の活用を積極的に進めた。

（令和6年度末時点 職員総数21人）

(2) 内部管理体制

当法人のガバナンス・コンプライアンス・ディスクロージャーの指針に基づき整備した内部規則の遵守を継続し、社会規範に従い誠実な業務の執行に努めた。

(3) 情報管理

当法人が保有する情報資産のシステム管理を強固にするため、各種対策を講じた。特に電子情報管理はネットワークシステムの信頼性・安全性を確保し、保有する情報を有効に効果的に活用することで業務の効率化や高度化を図った。

今年度は、ペーパーレス会議の運用を始め、電子決裁を推進することにより、作業効率を高めることができた。また、社内システム（業務管理、勤怠管理、物品施設予約）の機能を最大限に活用

するために、一元管理できるシステムに改善することにより、作業効率を上げることができた。さらに、社外で安全に社内システムが利用できるよう、機器を設定しネットワーク環境を整えた。